

1 学校として目指す授業

主体的に学びに向かう力を高め、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、児童一人一人が「分かった。できた。」と喜びを味わえる授業。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）		(2) その他の資料を活用した分析
学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析	活用した資料名及び分析結果
国語・算数ともに全国や都の平均正答数を上回っている。特に、国語・算数ともに「知識・技能」では8割近い正答率であり、基礎的・基本的な学力が定着している児童が多い。しかし、問題形式の記述式では正答率が低くなっている。文章で表現することが課題である。 都の調査のクロス分析から、十分理解できていないにも関わらず、理解しているつもりになっている児童が多いことが分かった。	肯定的回答が全国や都の平均を上回っていることが多い。「自分にはよいところがある。」「将来の夢や目標をもっている。」と感じている児童が多く、自己肯定感が高く、将来に対する希望をもっている。一方で、先生や大人に相談できないと感じている児童がいることが分かり、児童へ積極的な声掛けが必要だと考える。	東京ベーシックドリル診断テスト算数（6月実施） ・診断テストでは低学年の定着率は高いが、4年生以上では分からない内容をそのままにしている傾向が見られる。繰り返し、類似問題に取り組ませ、学び残しがないようにしていく必要がある。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・既習事項が定着しておらず、自力解決の場面では手が止まってしまう児童がいる。
- ・友達の考えを、最後までしっかりと聞くことができない児童がいる。
- ・課題解決に向けての方法を、自ら筋道を立てて考え、表現することを苦手としている。
- ・児童の個々の状況にあった教え方、教材、学習時間になっていない。
- ・授業やテストで間違えたところを、理解できるまで取り組めていない。

4 学校全体の授業改善の視点

- ・東京ベーシックドリルや、ICTを活用するなど個に応じた指導を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・学級が安心して学べる居場所になるよう、「分からない・できないこと」を伝えたり助けたりする活動を重視し、協働的な学びが深い学びにつながることを理解させる。
- ・探究的な学びや体験活動を通して協働的な学びを充実させ、子ども同士で協力しながら様々な課題解決し、表現できる能力を養う。

- 【授業改善推進プランの活用法】
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
 - ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
 - ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
 - ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
 - ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
 - ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・語彙を増やし、文字や句読点の正しい使い方を身に付けるために、言葉に関する学習の機会を設定する。 ・立場を明確にした上で、話し合う言語活動を充実させる。				・毎回の授業で短い時間で練習を繰り返し、習熟できる機会を設けている。 ・ICTを使って意見を共有し、考えを深める場面を設定する。			・季節の違いを実感し、体験的な活動を取り入れ、見る、触る、匂いを嗅ぐなどの観察の視点を提示する。 ・ICTを活用し、言葉などによる振り返りや気付きを伝え合える場を適切に設定する。		・ベア学習や班での学習を通して、楽器を弾く際に正確に指運びができるように、全体で確認する場面を設ける。 ・音遊びを取り入れ、音楽活動に楽しみながら前向きに参加できるようにする。		・製作方法を理解し、想像力を膨らませられるよう視覚的な支援を取り入れる。 ・作品を紹介し合ったり見合ったりする場面を設け、自分の思いや考えを広げられるようにする。				・場や用具を工夫して基本的な体の動きを身に付けさせ、児童が体を動かす楽しさを味わわす。 ・友達同士で動きの確認をし、場の共有をして、遊び方や体の動かし方を学び合える場面を設定する。				・授業は「導入－展開－まとめ」を意識して組み立て、児童の実態を踏まえ、動作化や役割演技を取り入れていく。 ・道徳的価値付けを具体的にを行うことで、児童が「自分ごと」として捉えられるようにする。		
中学年	・新出漢字の指導を丁寧に行い、小テストや文章などで漢字を使う機会を増やすことで定着させる。 ・話し合う目的を明確にして学び合いの時間を確保する。		・主体的に取り組めるように、社会的事象との出会わせ方を工夫する。 ・学習問題に対する予想する時間を設け、話し合いながら自分たちで学習計画を立てられるようにする。		・自分の考えをもてるような手だて「一人で考える、友達と考える、友達の考えから学ぶ等」を取り入れた授業を展開する。 ・既習事項の復習ドリルや類似問題に取り組む時間を設け、基礎学力の定着を図る。		・考察を書く観点について指導し、表現する力を育成し、理料的な思考を高める。 ・実験結果を全体で共有する時間を設け、話し合いながら考えを深めることができるようにする。			・リコーダーの基礎が身に付くように、丁寧な個別指導で定着を図る。 ・音楽を聴いて感じたことや気付いたことを伝え合い、音楽表現に生かす。		・自分なりに自由に発想、工夫することができるような題材を提示する。 ・作品作りを始める前に、互いの考えを伝え合い、想像や発想を広げる時間を設定する。				・児童同士の伝え合いやICTの活用等を通して課題解決力を高める。 ・各領域にあった学習カードを用意し、成長の足跡を残していく。めあてを自分で立て、達成度を確認できるようにする。				・話し合い活動を取り入れ、考えを共有し、多様な考えに触れ、自分の考えを高め、深い学びの実現を図る。 ・ICTを活用して、個々の考えをお互いに自由に見ながら共有し、協働的な学びの実現を図る。		
高学年	・自分の考えや要点をまとめ、文章で表現する活動を意図的に取り入れる。 ・対話活動を効果的に取り入れたたり、ICTを取り入れたたりして、思考力を深める。		・「位置や空間的な広がり」「時間の経過」「人々の相互関係」から捉え、学習問題を設定する時間を大切にする。 ・ICTを活用しながら、自分の考えをまとめ、共有し、さらに深めるようにする。		・ICTを活用し、様々な方法で表現したり友達の意見を共有したりしていき、思考力を高める。 ・割合や速さの領域が苦手な児童が多くいるため、ベーシックドリルの練習問題を活用し、繰り返し指導していく。		・根拠をもって予想するため、学習の振り返りや日常生活の体験を想起させる時間の充実を図る。 ・実験を行う際には必ず予想を立て、それを立証するための実験方法を考えさせてから実験を行い、思考力を高める。		・ICTを活用し、様々な方法で表現したり友達の意見を共有したりしていき、思考力を高める。 ・割合や速さの領域が苦手な児童が多くいるため、ベーシックドリルの練習問題を活用し、繰り返し指導していく。		・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解し、音楽表現に必要な技能を身に付けられるようにする。 ・友達と表現の良さを認め合い、相手意識をもって演奏する楽しさを感じられるようにする。		・児童一人一人のベースを大切に活動を行うと共に多様な意見を共有し合意形成を図る活動を取り入れる。 ・活動にICTを積極的に活用する。		・具体的な課題を設定し、問題解決的な学習を軸に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。 ・実習では、一定の条件の中で自主的に課題を選択できるよう、手立てを講じる。		・自己や仲間の課題を見付け、解決の仕方や改善方法を考えることができるよう、解決のための道筋を児童と共に立てる。 ・動きを言語化できるよう、動きの感覚を児童に聞いたり、問い直しをしたりする。		・自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、コミュニケーションの力や表現力が身に付くようにする。 ・児童が楽しく、主体的に取り組めるよう、活動内容や学習課題を工夫する。		・グループで議論する時間を意図的に設け、多様な考え方に出会い、自分なりに考えられるようにする。 ・思いや考えを表現しやすくするためにICTを活用する。	